

# 由宇中学校区 小中一貫教育の取組

<b>目標</b> 夢や希望をもち、主体的に学び、たくましく伸びていく由宇っ子の育成	<h2>小中一貫教育の在り方</h2>	
<b>めざす子ども像</b>  ○ 検討中 ○ ○	幼保・小・中学校が連携・一貫した教育活動(由宇学連)を中核として、計画的・系統的・継続的に推進している。	<b>プロジェクトチーム</b>  主体的な学び ○学習規律 ○聞く・伝える学び合い活動 ○家庭学習  豊かな心 ○あいさつと礼儀 ○地域愛(交流・伝統継承・貢献) ○夢や志を持たせるキャリア教育  たくましい体 ○生活習慣 ○柔軟性と体力 ○環境美化
<b>基盤となる子ども像</b>	<b>由宇学連組織図</b> 由宇学連全体会 ↓ プロジェクトチーム ↓ 地区校長会 地区教頭会 教頭・幼保主任会 一貫教育担当者会 教務主任会  実務者会議	
○元気なあいさつができる子 ○人の話がしっかり聞ける子  由宇地域協育ネット 平成24年5月決定		

## 学校運営

由宇学校教育連絡協議会(由宇学連)の取組

**由宇学連会員**  
 岩国市教育委員会由宇支所 由宇中学校  
 由宇小学校 由西小学校 神東小学校  
 にこにこどり園 由宇保育園 清華保育園

### 夏季全体研修会の開催

由宇学連会員と各小中学校の保護者、地域の方、児童、生徒が参加して熟議を実施  
 熟議テーマ めざす子ども像

- ・知「主体的な学び」
- ・徳「豊かな心」
- ・体「たくましい体」



## 学校支援

地域の方からいただいた花の苗と一緒に植えています。上手な植え方や育て方を教えていただきながら丁寧に植えていきました。環境整備作業でもご支援をいただきました。

笠塚神楽団の方から神楽の指導を受けています。月に1～2回練習します。30年度からは、笛や太鼓も児童が演奏するようになり、1年から6年まで、全校で取り組んでいます。

体育やクラブの時間にスナッグゴルフの練習をしています。コーチから熱心な指導を受け、平成30年度は福島で行われた全国大会にも出場することができました。

## 地域貢献

**運動会**

**とんど境**

**盆踊り大会**

**海浜清掃**

子どもたちは、地域の行事によく参加しています。さらには行事活動をよりよくするために進んで準備や運営、後片付けなどにも力を尽くしています。地域の皆様は、子どもたちのために全力で力を貸してください。そして、大人も子どもと一緒に楽しむことができる行事にすることができているのです。

**校外クリーン作戦**

海は故郷の宝です。学校近くの砂浜を保護者や地域の人たちと一緒に清掃しています。きれいな海は私たちの誇りです。だからみんなできれいにしています。学校周辺の通学路も子どもたちは定期的に掃除をして美しい環境を守っています。

## 地域の担い手としての当事者意識の醸成

多くの中学生がボランティアに参加し、地域の方々のふるさとや地域のこれからの思いに触れる取組を進めています。今後は、地域の担い手としての当事者意識をより一層高めるためにも、さまざまな活動の運営に参画する機会をより多く設けていきたいと思っております。

年番神楽会場設営と紙芝居展示

福祉施設での盆踊り大会

スポーツイベント運営スタッフ

由宇駅前花の植え替え(花壇整備)

<b>成果</b>	○夏季全体研修会で児童生徒も一緒に熟議を行ったことで、めざす子ども像の実現に向けた主体的な意見を知ることができた。 ○小中学校教員の相互理解が進むだけでなく、小学校教員が中学生のことを、中学校教員が小学生のことを理解する機会になった。 ○地域の方の関わりの中で児童が育つことができ、地域に見守られていることを児童が実感している。 ○地域は常に「子どもは地域の宝」というスタンスで学校支援をしてくださっている。 ○子どもたちに地域の未来を託す思いから、多くの行事や活動において子どもたちが準備したり運営したりする場が多く設定してある。 そのため、子どもたちは地域活動の中で自己有用感を実感することができる。	小中一貫教育を軸とした地域連携を推進し、「誇れる」取組をより一層充実させていきます。  卒業生から中学校宛ての手紙(抜粋)  つい先日、土曜日の朝に部活に行くため由宇駅に行ったところ、駅の花壇の掃除をする由宇中学生を見て「今年も頑張ってるな。」と感じました。 ～ 中略 ～ 改めて地域との結びつきやボランティア精神を感じ、とても誇らしく思いました。
<b>課題</b>	○学力向上をはじめ、知・徳・体の調和のとれた教育を学校・家庭・地域が一体となって、いかに推進していくかが課題である。 ○熟議で行った行動宣言をPDCAサイクルののりによって行動化していく。また、進捗状況を各学校、保護者、地域と共有する。 ○児童数の減少や充実した交流を進めるための交通費の捻出が難しい事などから、活動をいかに継続していくかが課題である。 ○参加から参画へと取組の質を高め、地域の担い手の当事者意識を高めていく必要がある。	